

最近の将棋アプリはすごい

北海道大学医師会
北海道大学大学院医学研究院

すずき まさのぶ
鈴木 正宣

最近の将棋はすごいです。

何がすごいかというと、一手ごとに人工知能 (AI) が点数をつけてくれます。ちょうどカラオケのリアルタイム採点みたいなものです。

従来、将棋中継はおじいさんとおじさんが板に向かいあって「むむむ」って言いながら数時間に一度一手を指す、動画だけれども静止画みたいなものでした。指した手がいいのか、わるいのか、すごいのか、すごくないのか、素人には全然わかりませんでした。

最近では一手ごとにAIが評価し、現在の勝率として画面にCGで表示されます (ABEMAというインターネット放送で無料で見えます)。僕のような素人 (小学生の時に父さんにルールを覚えてもらったぐらい) でも、どっちが勝ってるのか、今の手がいい手なのかどうなのかわかります。

以前、藤井聡太くんが、勝率1%まで追い詰められていましたが、そこから逆転、最後は99%になって勝利していました。1%から逆転したので、これは多分すごいことなんだと思います。野球でいうと逆転ホームラン (しかも満塁どころか、各塁に走者が3人ずつぐらいいて、一気に12点ぐらい入るやつ) みたいなものでしょう。AIがなかったら藤井くんが追い詰められているのか、追い詰めているのか、

傍目にはわからなかったです。

このAIによる点数化はTVやインターネットだけではなく、スマホアプリにまで導入されています。僕のおすすめのアプリは「びよ将棋」です。かわいいひよこと対戦するのですが、見た目とは裏腹にどぎつい手を連発していきます。でも、アプリなので「待った」し放題です。僕は一手打つごとに点数を見て、悪い手だったら容赦なく「待った」します。いい点数の手がでるまで何度でも「待った」します。なので、負けることはありません。今のところ1,264勝0敗と尋常じゃない記録を打ち立てています。

スマホなので隙間時間にできます。電車の中とか、食堂でご飯待ちのときとか、手持ちぶさたのときにポチポチしています。通信を必要としないので、国際線の飛行機の中でもやります。無料版でも十分に楽しめるので、ぜひみなさんやってみてください。

どの手がいいのか、悪いのか客観的なフィードバックがあるので、上達も早いと思います。こうした、技量の「見える化」は、専攻医の手術トレーニング (僕は鼻の内視鏡手術を専門としています) にも大事と思って、北大の情報科学院と共同研究を始めました。これまでに3Dプリンターで作製した副鼻腔モデルを用いてトレーニング条件を標準化し、妥当性と有効性を検討し、モーションキャプチャーで測定したデータを機械学習で評価しています。いくつか論文を書いたほか、国際学会でも発表しました。もっと研究を進めようと思います。

以上、最近の将棋はすごいという話でした。お付き合いありがとうございました。

北海道医報年間購読のご案内

北海道医師会では北海道医報の定期購読を希望される方に、年間購読のご案内をしております。ご希望の際は下記までお問い合わせください。

購読料金：3,300円 (税込)

購読期間：年度ごと 4月～翌年3月までの1年間

募集対象：医療機関、医療関係団体や法人、または個人

支払方法：指定の口座への振込または郵便振替

問い合わせ先：北海道医師会 事業第一課

TEL 011-231-7661 FAX 011-241-3090 E-mail ihou@m.douji.jp